

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200039		
法人名	有限会社 真和会		
事業所名	ファミリー倶楽部		
所在地	熊本県天草市松島町合津1068-1		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成31年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方は何だかの疾病をもたれているので、その疾病が悪化しないように体調管理や、状態の把握には特に気をつけ、又主治医との連絡が直ぐ取れ連携がとれているので、利用者の家族の方も安心しておられる。利用者の方にも家庭生活の継続のように、居心地の良い場所作りができる様に支援している。利用者の方も自室より食堂で他の入居者の方とお喋りしながらテレビを観られている時間が多く、午前・午後にラジオ体操を毎日行っているが、体調が悪い人以外は参加されている。また身体的に低下がある方には個別に1日2回リハビリに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設全体が木をふんだんに使った作りとなっており、全体的に落ち着ける生活空間づくりがされています。  
日当たりのよい施設の共有スペースを利用して、入居者とスタッフの方が歌を歌ったりして、ゆっくりとリラックスできるよう努められています。医療・介護連携が充実しており、訪問看護・訪問医療のシステムが構築されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が暮らしてきた生活を大切に、その人らしい生活が送れるように理念をつくり、個々の日々の生活の支援を行っている。	理念はスタッフの目につく所に貼られてはいますが、以前のようにスタッフと共有はできていないと管理者は捉えています。家族には施設通信に理念を載せて知らせているとのこと。	スタッフ会議等の機会に理念を各スタッフと共有し、日々のケアにつなげていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区公民館の大掃除参加、資源ごみの収集など、行事参加だけではなく準備の手伝いもできる範囲で協力し、交流を図っているが、年々参加が難しくなっている。	地域活動にはスタッフが参加されています。行事で地域の方と餅つきを開催しています。利用者の参加は状態の変化、加齢により年々困難になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症の理解をしていただくために活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、サービスの実際等や、利用者様の状況、他の取り組み等を報告し、委員の方からはいろいろな意見をいただいたり、アドバイスをもらい、サービスの改善や向上に活かしている。	地域活動をされている方より、「事業所活動を、地域の方々に理解してもらえる取り組みをもっとした方が良いのではないか」との意見が出ています。	地域の方々の意見貴重です。運営推進会議の場で、地域活動を一緒に考えていただく機会にすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度やその他分からない事は、担当者の方に聞いたりして、また推進会議に出席された職員の方から意見等が聞ける。	事業所から制度について質問をし、担当者からは詳細な回答をもらうというような、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で、学んできた事をみんなに周知し、取り組んでいる。また身体や生命に危険が及ぶような時は、家族の方と話し合いの場を設け、又同意書を作成し同意を得ている。	身体拘束に関しての研修を、年2回実施されています。また、安全面を優先するため身体拘束につながるような場合は、その都度家族に報告し話し合いがもたれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてはミーティング等の勉強会で、学び絶対ないように注意を払い、防止に努め、もちろん起こってもいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの勉強会や外部主催の研修会で、制度の理解をしてもらい、制度が必要な方には活用ができるような支援を心がけている。活用される方は現在おられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には利用者、家族等に入居に関しての説明をし、不安や疑問点を尋ねた上で、理解や納得してもらってから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けてないが、面会時等日頃から不満や苦情を言えるような雰囲気にし、また意見シートの設置で、相談にのりそれらを運営に反映できるように努力している。	意見箱はありますが、最近では意見が入っている事が少なくなっているようです。面会時に管理者が意識的に家族の意見を聞くよう努めています。	面会時のみでなく、意見を聞く家族会の開催や広報誌の活用を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや職員の交流会で機会を設け反映に生かしている。又普段から遠慮なく意見を言える雰囲気作りにも努め、毎日の申し送りや個々の気付いた点が反映できるようにしている。	職員の意見を聞く機会が少なく、ミーティング内容がマンネリ化していることを苦慮されています。	担当決めることで職員のモチベーションを上げたり、役割を明確にすることで実践できるよう支援されています。さらに、充実されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいような環境整備ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人内の研究発表会を設け、それに対し自己研修や、グループ研修の機会を作り、職員の育成や研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回の同業者との勉強会を開催し、その時お互いの活動報告や、交流が得られ開催を通じサービスの質を向上させていく取り組みに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方から直接聞かれたり、また利用者の方から聞かれない時は、行動や仕草で不安なこと、求めていることを観察し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時の施設見学等から、家族の話を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にこられる時は、直の入居希望がほとんどで、入居できる時は入居してもらう事ができるが、その他は今利用できるサービスの紹介を行うなど、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様は大家族の中で、生活を共にしてるんだと考え、本人が出来る事はしてもらい日々の暮らしを支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、些細なことでも今までなかった出来事や、職員と楽しく会話されたことなどを話したりして、良い関係が築け、家族の方と一緒に支えていけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などには関係が途切れないように、ホームに案内したりして努力しているが、お互い高齢になったり身体的にも外出が、難しくなっている。	利用者が車椅子になられていくので馴染みの場所への外出も段々と困難になってきています。ご家族もご高齢になられ面会の回数も減ってきているとのこと。	ご家族の写真や入居者の馴染みの場所の写真を撮ってプロジェクターでの上映会を開催するなどの工夫を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は上手くできているが、たまに口喧嘩が起こる場合がある。その時は孤立させないよう話を聴き支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、どうされているか近況を電話で尋ねたり、家族に会ったりしてつきあいを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や散歩時入居者のふとした言葉の中に新たな思いの発見をする時がある。そのような言葉や表情、仕草等を見逃さず、入居者の満足のいく生活に反映できるよう努めている。	利用者の発語が次第に少なくなり、言語による意思疎通が困難になってきています。入居者の表情から判断することが増えてきています。	利用者の自宅を見ることでこれまでの暮らし方を観察することができます。居室の部屋作りや事業所での生活の参考にされてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人から、又は家族からこれまでの経過や利用してこられたサービス機関からの情報や普段の生活の中での会話で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、一人一人の日々の生活を観察し、総合的に把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画を作成しそれに基づいて、職員、家族等と話し合い、利用者本位の計画に作成ができるよう、担当者を作り全員で取り組み、ケアプランと介護計画が連動するよう努めている。	ケア担当者会議には管理者が主に参加しています。家族の要望は電話で聞き取りを行っています。介護計画からモニタリングまでの一連の流れはできています。	ケアプランを面会が少ないご家族へは発送し、共有することが大切でしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気づき等の記録は残し情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に応じて、母体の医院に入院して治療ができた、訪問看護の利用ができ、柔軟な支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問ボランティアなどの協力があつたり、運営推進会議でのアドバイスで他の機関との協力ができ、地域での暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得が得られた主治医との連携が常に取れるようにできていて、適切な医療を受けられるような体制で支援している。	定期的に主治医の往診があります。3ヶ月に1回はレントゲン撮影などの検査が行われています。	診療結果のコピーをご家族へ郵送するなど、家族と正確な情報共有ができる取り組みが望まれます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院との契約で看護師の訪問があり、日常の健康管理や医療活用の支援はできている。また利用者様の変化時には看護師に報告、相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は常に病院関係者との情報交換や相談したり連携に努め、退院後の対応についても情報交換が出来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より終末期のあり方を家族の方と話し合い、家族の意向にそえるように支援している。	終末期指針書に則った終末期ケアを行っています。家族の意向を確認しながら事業所での看取りを実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の手順をつくり、全職員が慌てず対応できるように、系列施設との合同勉強会やミーティング等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を3回実施し、又地域の方の緊急連絡網を作成し協力が得られるような協力体制を築いている。昨年4月の熊本地震では近隣の方からの声かけがあり心強く感じた。	夜間と昼間を想定した避難訓練を、消防署員立ち合いを年2回実施しています。自主訓練も年1回行っています。	今後は、ご近所を含めた緊急連絡網を作成し合同で避難訓練をするなど、地域との協力体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳やプライバシーを大切に し対応や言葉使いに気をつけている。又記 録等の取扱いにも十分注意をはらってい る。	トイレが奥にあり、事業所のつくりがプライバ シー保護が担保できる構造になっています。 清潔が保たれ、プライバシーに配慮されてい ます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	押し付けの介護や、自立を阻害するような 介護はしないように注意をはらって行うよう 話し合って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の方は自分のペースで生活リズム ができていますが、認知症が進行し自分で生 活リズムが作れない方には、1日のリズムを 把握し、サイクル作りを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	身だしなみなどは、できない人には支援を行 い、理容、美容等も本人の望む店にいける ように支援しているが、現在では施設内 での支援が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	介助が必要な方も増え、以前の様に会話を しながらとは中々出来ないが、食器の片付 けなど自分でできることはされている。	メニューが利用者に見えるよう貼ってあり、食 事を楽しみされています。近年高齢化に伴 い、準備や片付けなどに参加できる利用者 がが少なくなっています。	箸置きを作るなど、できることをしてい ただくことで、より食事を楽しむ工夫を 検討されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士が立てた献立をもとに調理を行い、 摂取量も一人一人の状態に合わせた支援 を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	自分でできる人は、自分で歯磨きをしてもら い、介助が必要な人は支援にて毎食後口腔 ケアを行っている。義歯洗浄は職員が支援 している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でできる人には転倒などの事故に気をつけ、支援が必要な人にはさりげなく声かけを行い、失敗がないような支援ができるよう努力している。一人一人の排泄パターンを把握して誘導している。	排泄誘導など、自立支援に取り組んでいます。家族の同意のもと、夜間のみつなぎ着用の方が1名おられますが、現在異なる方法を検討中です。	つなぎ服を取止めるための計画を作成し、無くす取り組みをされることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで、個々の排便がスムーズにいくように支援し頑固な時は、主治医の指示のもとで下剤を服用してもらい、運動等で排便を促す支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴パターンを把握し、個々の好みに応じた入浴の支援を行い、意志の表現がない人には職員が声かけを行い、入浴ができる様に支援している。又疾患に応じ湯船の時間にも細心の注意を払い快適な入浴となるよう努めている。	週3回の入浴を基本としています。入浴拒否のため現在週に1回程度の方が1名いらっしゃいますが、アセスメントをし新たな方法を検討中です。	すべての利用者が最低週2回の入浴実施ができるように支援されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みなさん自分が休みたいときには、自室に行かれベッドで休まれているが、自分できない方にはその方の状況を見て休息できるように自室への移動介助を行うなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の処方を把握し、服薬時は飲み込みまで確認し支援が必要な人には介助し、変化時には主治医への連絡が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には一緒に歌ったり、テーブル拭き、せんたく物干し、たたみなど、その人のできる役割をしてもらったりして、張り合いや喜びのある日々が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体的に重度化が進み、外出も中々できなくなっているが、散歩に出かけたい方には一緒に出かける支援を行っている。	外出できる方は散歩をしています。外出することが困難な状況となっている方には、縁側に出て日光浴、外気浴を実施しています。	近くに運動公園があります。近隣の施設を利用した外出の計画を立案し、実行されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在家族からお金を預かり、希望があれば一緒に出かけて買い物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があれば、かけ電話で話してもらったり、手紙が届いたら返事等は、本人が書けない時は職員が代筆し、返事が出せる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花、行事の飾りつけで季節感を感じてもらい、それによって利用者内の会話に一助にもなっている	季節感を大切にし、四季に合わせた飾りつけを心掛けています。訪問時にはお雛様が飾ってありました。以前のような飾りつけができなくなったことが課題と管理者は捉えています。居間をはじめとする共有空間は清潔が保たれています。	今後はスタッフと協力して、以前実施していたような飾りつけなどができるよう工夫されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を確保し、自分なりに自由に過ごされたり、利用者同士の語らいには食堂にきて過ごされている又個人の部屋を訪問しお喋りをして過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好みの物を持ち込まれたりして、本人が好きなような使い方をされている。	居室は清潔が保たれ、各自の好みを取り入れられています。	その人の生活が見える生活空間創りをされることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗を招かないような環境づくりを心がけ、自立した生活が送れるよう貼り紙での工夫をしている。		